

学校法人光華女子学園
2022年度事業計画書



目 次

I. 経営方針

1. スローガンと校是
2. 経営方針策定にあたっての基本的な考え方
3. 本学教職員としての基本の再確認
4. 2022年度経営重点項目
5. 2022年度経営方針数値目標

II. 主な事業計画の概要

(1) 大学院・大学・短期大学部

(1) 光華一貫教育の創造

- ① 建学の精神に基づく宗教教育
- ② 京都光華高等学校との高大接続
- ③ 幼・小・中・高を含む併設校への支援と連携

(2) 教育・研究の質・体制の充実

- ① 学部・学科・研究科等の将来構想
- ② 基幹研究の展開
- ③ 学修・学生支援体制の向上
- ④ 光華独自の教育・指導法（光華メソッド）の確立
- ⑤ 他大学との連携（共同授業・研究等）の強化
- ⑥ 就職・キャリア開発・地域連携への支援強化
- ⑦ 研究支援体制の充実
- ⑧ キャンパスのグローバル化の推進
- ⑨ 図書館・真宗文化研究所・カウンセリングセンター・人権啓発センター
光華もの忘れ・フレイルクリニックの事業計画

(3) 経営基盤の強化

- ① 志願者増につながる戦略的募集・広報活動
- ② ガバナンスコードの策定と運用
- ③ SD実施強化の検討
- ④ 大学・短大における基金の設立

(2) 高等学校

(1) 光華一貫教育の創造

- ① 建学の精神に基づく宗教教育
- ② 体験・探究学習×教科学習×Edtech
- ③ 言語活動と異文化理解教育

(2) 教育研究体制・質の向上

- ① 教育体制・運営体制、研究体制、中学校・高等学校のコース改革のあり方
- ② 働き方改革に向けて

(3) 教育環境の充実

- ① ハード面、ソフト面での環境整備

(4) 経営・運営基盤の強化

- ① 志願者増・入学者確保につながる戦略的募集・広報活動

(3) 中学校

(1) 光華一貫教育の創造

- ① 建学の精神に基づく宗教教育
- ② 体験・探究学習×教科学習×EdTech
- ③ 言語活動と異文化理解教育

(2) 教育研究体制・質の向上

- ① 教育体制・運営体制、研究体制、中学校・高等学校のコース改革のあり方
- ② 働き方改革に向けて

(3) 教育環境の充実

- ① ハード面、ソフト面での環境整備

(4) 経営・運営基盤の強化

- ① 志願者増・入学者確保につながる戦略的募集・広報活動

(4) 小学校

(1) 光華一貫教育の創造

- ① 建学の精神に基づく宗教教育
- ② 体験・探究学習×教科学習×EdTech
- ③ 言語活動と異文化理解教育

(2) 教育研究体制・質の向上

- ① 教育体制・運営体制、研究体制のあり方、中学校・高等学校のコース改革のあり方
- ② 働き方改革に向けて

(3) 教育環境の充実

- ① ハード面、ソフト面での環境整備

(4) 経営・運営基盤の強化

- ① 志願者増・入学者確保につながる戦略的募集・広報活動

(5) 幼稚園

(1) 光華一貫教育の創造

- ① 建学の精神に基づく宗教教育
- ② 英語教育の実践 (KOKA ENGLISH メソッド)
- ③ 効果的な教育手法の研究
- ④ SDGsに対する取り組み

(2) 教育研究体制・質の向上

- ① 魅力ある光華教育の構築
- ② 満3歳児保育の充実・拡大と将来構想
- ③ 活気ある教職員体制づくり
- ④ 働きやすい職場づくり (働き方改革に向けて)

(3) 教育環境の充実

① ハード面、ソフト面での環境整備

(4) 経営・運営基盤の強化

① 志願者増・入園者確保につながる戦略的募集・広報活動

② 小学校への内部進学者増につなげる幼少連携の充実（内部進学率25%目標）

(6) 学園

(1) 中期計画「The Road to 2030 – ACT1」の事業計画実施と進捗管理（KPI管理）

(2) 2022年度事業活動収支の改善

(3) 補助金・助成金と寄付金、資産運用益の獲得

(4) 事務局の組織再編と職員力の強化

(5) 学園ガバナンス・コンプライアンスの強化

(6) NPO法人（京都光華アカデミック&スポーツクラブ）の事業展開

(7) 各種団体との連携

Ⅲ. 施設・設備等整備事業

1. 施設整備計画

2. 設備整備計画

3. ICT教育環境の整備

Ⅳ. 2022年度予算

1. 中期計画「The Road to 2030 – ACT1」

2. 2022年度事業活動収支予算

I. 経営方針

1. スローガンと校是

スローガン	“温故創新” - ワクワク感漲る光華女子学園の創造に向けて – 建学の精神に基づく教育の展開を基本としつつ、オリジナリティー溢れる創造的な取り組みに チャレンジし、現状打破を目指す
校是	Students & Parents Satisfaction の向上
人材育成	思いやりの心と創造力を兼ね備えた人材の育成

2. 2022 年度経営方針策定にあたっての基本的な考え方

光華ビジョン 2030 の実現に向け、中期計画 ACT1（3 年目）を着実に実施すべく、2022 年度は以下の 5 項目を重点軸として学園経営にあたる。併せて With コロナ時代を意識した学園運営（ICT 環境整備の拡充、健康創造の推進、アメニティの向上等）に積極的に取り組む。

(1) 学園並びに設置校のブランド構築（特色化の推進）

光華ビジョン 2030 に基づく学園・設置校の**ブランド構築**を着実に進め、**新たなマーケットポジション確立**を目指す。

- ① 学園並びに設置校のブランド設定
- ② 大短学部学科の再編、新增設
- ③ 小中高構造改革の実践（初年度）
- ④ 幼稚園教育改革の具体化
- ⑤ 一貫教育（宗教教育・英語教育・効果的教育手法）の具体化

(2) 在籍者数の増と財政規律の健全化

2023 年度に向け 2022 年度入学・入園数（**805 名見込み（2021 年実績：759 名）**）を上回る学生・生徒・児童・園児数を確保し、各設置校を活気づけるとともに、収入に応じた体制での運営を模索するなど財政規律の健全化をはかる。

(3) キャンパス環境の整備

光華ビジョン 2030 に基づく施設等整備計画を着実に進め、新たな特色教育を実践するに相応しい環境を整える。

(4) 地域・社会への展開

光華ビジョン 2030 で示した地域のプラットフォーム校の実現に向け、研究活動の活性化、社会実装の推進、地域交流・貢献の拡充などに積極的に取り組む。

(5) 運営組織の強化

光華ビジョン 2030 の実現に向け、組織体制の強化（再構築）と組織文化の一新、能力開発と人事評価制度の見直し、業務の効率化・ICT 化の推進に取り組み生産性の向上をはかる。

3. 本学教職員としての基本の再確認 - 仏教精神、特に親鸞聖人が明らかにされた真宗についての理解を深める

(1) 仏教とは

◇ 仏は願いでできている

- ・ 仏の願い：生きとし生けるもの全てを救い、幸せにしてやりたいという願い
- ・ 願いが表れた姿 = 浄土 = 慈悲（摂取不捨、思いやり）の世界
- ・ 真実心 = 仏の心 = 慈悲の心 = 摂取不捨の心、思いやりの心

◇ 善悪を示したり明らかにするものではなく、良い結果を求めたり与えたりするものではない

- ・ どう生きていけばいいかの **こころがけを示したもの** ⇒ **教えを身で受け、身で確かめる歩み**
- ・ 具体的には、縁起や少欲知足、利他、中道、自然法爾、同朋などの教え

(2) 仏の知恵と人間の知恵の違い（実るほど頭を垂れる稲穂かな）

◇ 人間の知恵 → 学べば学ぶほど頭が上がる

- ・ 自分が何かを学び、覚え、理解したもの（知識、教養）

◇ 仏の知恵 → 自らの姿に気づき謙虚になって頭が下がる（単なる知識、教養が本当の学問、人格へ）

- ・ 仏の方から私たちを照らし（仏の知恵：光）、自分の見えなかった、気づけなかった姿に気づかせてくれるもの
- ・ **無碍の光明は無明の闇を破する慧日なり**（『教行信証』 親鸞聖人）

(3) 仏教の救いとは（苦しみからの解放）

◇ 自己が明らかになること（平均的人間の問題ではなく、個の問題 ⇒ 個の心の問題）

- ・ さまざまな課題、苦しみ、悩みの原因を、**外に見出すのではなく、自己の内に見出す**

◇ 自分の姿を明らかにするための心がけ：**光華の心（向上心→感謝の心→潤いの心）**

- ・ 校訓「真実心」を掲げる光華での学びを通し、自分の姿に気づく（無碍の光明は無明の闇を破する慧日なり）
- ・ **校訓「真実心」**の発揮に繋がる（摂取不捨、思いやりの心（潤いの心））

(4) 仏教精神に基づく教育について

◇ 教職員自身が自分と向き合う姿勢・心を持つことが必須（仏教とは個の心の問題）

- ・ 自分と向き合い、自分を知る（自覚）
- ・ 自覚を深める → 心の鏡に自分を写し、心の内奥深く自分自身を見つめる

◇ さまざまな現実的苦悩に対し、自らの心の内にそれを乗り越えるための**自信と努力**を持つ

- ・ 自分を励まし、悩み苦しみと向き合う努力、自らと向き合える力（教養）を持つ努力 ⇒ 努力が自信へ
- ・ 自分の力で乗り越えたつもりが、実は自分の力で乗り越えたのではなかったとの気づき ⇒ 自立から同朋へ

◇ 自分の至らなさ、自分のたよりにさに気づけば気づくほど、人間は深まる（深める教育を実践するのが光華）

- ・ 自覚の内容が言動に表れる（思いやりの心の発揮）：**真実心** ⇒ **お蔭様、お互い様、共助、同朋・・・**

◇ 教職員自身がこれらを実践し、併せて学生生徒等が自己と向き合うための「自信と努力」を育む支えとなる

(5) 本学における仏教精神に基づく教育の実践（宗教科、宗教行事以外のプログラム等での実践）

探究学習（アクティブラーニング）や論理プログラム、国語教育などは中道（バランスの取れた立場で、客観的に状況を把握し、何が適切かを判断し日々あるべき生活を過ごす）を歩むための八正道（見解（正見）、考え（正思惟）、言葉（正語）、行い（正業）、生活（正命）、努力（正精進）、注意（正念）、精神統一（正定））の実践

4.2022 年度経営重点項目

(1) 学園並びに設置校のブランド構築（特色化の推進）

- ①大短院専：**人々の健康と未来を創造する女子大学 健康・未来創造キャンパスの実現**
- * 2024 年度に向けた新設学科・専攻設置、健康科学部の 2 学部化、収容定員増申請・届出の準備
 - * 競合校以上の魅力を提供できる既設学科改革の立案と着実な実施（カリキュラム、取組、成果目標設定等）
 - * ブランドを構築する研究活動の活性化（特に基幹研究の設定と推進）
 - * 学生一人ひとりの可能性を引き出し伸ばす光華独自の教育手法の開発と標準化
- ②小中高：**自己を確立し、未来を創造する女性・児童の育成 主体性と創造力を育むワクワク感漲る学校**
- * 構造改革の実施初年度（計画していたことは必ずやる、できれば計画以上に実践する）
 - * 2 年目に向け、積み残しの解消と計画のさらなるブラッシュアップをはかる
- ③幼：**主体性と社会性の基礎を身につけ、学びに向かう意欲を備えた子どもを育む 学び合い、育ちあう幼稚園創り**
- * 五感を使った表現活動を重視した選択制のテーマ探究保育や異年齢保育・チーム保育（Jollytime）を柱とした教育改革の準備 ⇒ インパクトのある打ち出し方（改革案の付加価値）の検討
 - * アフタースクールや預かり保育の充実（保育サービスと保育内容の向上）
- ④全設置校：**心の教育を大切にし、温かみのある社会を創造する人材を一貫教育で養成している総合学園**
- * 大学の知見を活用した一貫教育の具体化・実質化 **（一貫教育創造プロジェクトの開始）**
 - ・「和のこころ」を育む宗教教育
 - ・自分の意見を発信できる英語教育
 - ・思考力・判断力・表現力を養う効果的な教育手法（光華メソッド）
 - * SDGs への積極的な取り組み（各設置校の取り組みと SDGs を関連づける）
- ⑤広報活動の強化（ブランド構築を意識したメリハリある広報活動と光華ならではの教育実践の PR 強化）

(2) 在籍者数の増と財政規律の健全化

- ①入学者・在籍者獲得目標 **（942 名）** 達成に向けた募集・広報活動の強化

	入学者数		在籍者数	
	2023.4	2022.4	2023.4	2022.4
大学院	15	20	37	31
大学	507	393	1,808	1,842
短大	100	82	184	142
専攻科	10	12	10	12
計	632	507	2,039	2,027
高等学校	145	139	400	395
中学校	50	44	129	125
小学校	45	32	215	218
幼稚園	70	67	198	201
合計	942	789	2,981	2,966

②部門別収支（設置校単位、学部・学科単位）の改善に向けた計画の立案

* 大短院専：**事業活動収支 350 百万円以上**

- ・定員割れ学科における定員充足の必達
- ・改革総合支援事業採択（タイプ I は必達）

* 幼小中高：**資金収支計画書における収支均衡**が当面の必達目標

- ・園児・児童・生徒増が最重要事項
- ・**中高における奨学金制度の見直し**

③中期的な在籍者数見通しに応じた運営体制（教職員数、組織等）への移行計画の立案

* 大短院専：**人件費比率 55.0%（2020 年度実績 56.8%）**

* 幼小中高：資金収支計画書における収支均衡が図れる人件費

④外部資金の積極的な獲得

⑤新たな収入源の模索

(3) キャンパス環境の整備

①北校地：

* **大短新棟建設及び既存施設リフォーム計画の具体化**

* テニスコートの移設（南校地へ）

②南校地：

* 小中新校舎竣工

* 中高既存施設のリフォーム（光風館食堂・図書館、伝統文化フロア、理科室、調理室）

* オールウェザーグラウンド、テニスコート（小学校校舎跡地活用）の整備

* 送迎用ロータリー整備

③全校地：安心安全な環境創り、環境（カーボンニュートラル）への配慮と校地内美化の推進

(4) 地域・社会への展開

①大短院専：

* 地域・企業・行政・他大学と連携した教育研究活動の推進とその成果の地域への還元

* With コロナを意識した公開講座等の実施（ブランド構築にもつながる）

* **2025 年大阪・関西万博への参画準備**（共創パートナーとしての活動内容を拡充）

* **光華もの忘れ・フレイルクリニック**の基盤確立と多職種連携拠点としての活用

* 富小路まちやキャンパスの積極的活用

②幼小中高：

* 地域・企業・行政と連携した教育活動の推進

③事務局：

* コロナワクチン接種（職域接種）への対応準備

* **NPO 法人「京都光華アカデミック&スポーツクラブ」**の拡充

(5) 運営組織の強化

①大短専院：

- * 2024 年度を見据えた新たな組織体制の検討と準備（学部学科の充実と全学横断的取り組みの両立）
- * 研究と社会実装を支える組織の構築

②幼小中高：

- * 組織体制の見直しと教職協同の推進（再点検）
- * **幼小中高をつなぐ人事交流・異動の実施**
- * 週休 2 日制の導入

③事務局

- * 光華ビジョン 2030 実現に向けた事務局体制（新組織）への移行（学園をけん引する事務局の構築）
- * 効率化・生産性向上を目指す DX の推進
- * 予算の効果的執行（一定額以上の執行に対する成果報告）

④全設置校

- * 教員評価、職員評価制度の見直し（能力開発と生産性向上）
- * 教職員の能力開発と教育研究水準、事務生産性向上に資する FD・SD の強化

(6) 全般

情報セキュリティ、コンプライアンスの徹底、情報公開の推進、BCP 策定

5.2022 年度経営方針数値目標／

項目		方針値	備考	
財務指標	(2023 年度) 学生生徒等納付金収入額	3,300 百万円	2023 年度在籍者での納付金	
	補助金収入額	941 百万円	※2	
	資産運用収入額	60 百万円	2021 年度見込 48 百万円	
	人件費比率	62.7%		
学生生徒数	2023 年度	入学者数※ 1	942 名	2022 年度見込 805 名
		在籍者数	2,964 名	2022 年度見込 2,926 名
		満 3 歳児	50 名	2022 年度 34 名
	内部進学率	幼→小	25%	2022 年度 8.8% (6/68)
		小→中	65%	2022 年度 50.0% (10/20)
		中→高	100%	2022 年度 85.3% (29/34)
		高→大短	50%	2022 年度 42.3% (55/130)
教育指標	退学率	大学	年間：1.9%	2021 年度 1.5%
			初年度：2.5%	2021 年度 1.4%
		短大	年間：2.6%	2021 年度 3.8%
			初年度：2.2%	2021 年度 5.5%
	就職率	大学	95%以上	2021 年度 (見込) 89.3%
		短大	90%以上	2021 年度 (見込) 80.5%
	合格率	看護師	100%	2021 年度 96.2%(76/79)
		保健師	100%	2021 年度 100%(9 /9)
		助産師	100%	2021 年度 100%(13/13)
		管理栄養士	100%	2021 年度 91.4%(74/81)
		社会福祉士	55%以上	2021 年度 46.2%(6/13)
		精神保健福祉士	100%	2021 年度 66.7%(2/3)
		言語聴覚士	90%以上	2021 年度 86.4%(19/22)
		臨床心理士	63%以上	2021 年度 50%(3/6)
公認心理師		47%以上	2021 年度 100% (5/5)	
公立小学校教諭※3		70%以上	2021 年度 61.5%(8/13)	
公立幼稚園教諭・保育士※3	80%以上	2021 年度 47.1%(8/17)		

※ 1 : 各校園・各学科別目標人数 心理学研究科 10/看護学研究科 5/キャリア形成学科 90/心理学科 60/社会福祉専攻 30/言語聴覚専攻 30/管理栄養士専攻 80/健康スポーツ栄養専攻 40/看護学科 95/こども教育学科 70/助産学専攻科 10/人間健康学群 12/ライフデザイン学科 100/高校 145/中学校 50/小学校 45/幼稚園 70

※ 2 : 改革総合支援事業 16 百万円を含む

※ 3 : 採用試験合格率

Ⅱ. 主な事業計画の概要

1. 大学院・大学・短期大学部

(1) 光華一貫教育の創造

① 建学の精神に基づく宗教教育

本学園は「仏教精神、特に親鸞聖人があきらかにされた真宗の教えに基づく教育」を建学の精神とし、親鸞聖人の主著『教行信証』に由来する「真實心」を校訓とする。この建学の精神と校訓には、本学園で学ぶ者が、自己を省みる「智慧」と、その智慧によって導かれる他者に対する想像力「慈悲」を、その生涯において実践する者であってほしいという願いが込められている。本学は、このような人間形成を基盤とした実学教育の高等教育機関として、次の時代を切り開く女性を育成することを使命とする。その使命を果たしていくにあたり、2022年度は以下の項目に取り組む。

・学園宗教教育推進タスクフォースの設置：各設置校での宗教教育の取り組みを体系化し、建学の精神に示される智慧と慈悲を自らの中に育む人間形成のありようを学園の一貫教育として明示化する。初年度にあたる今年度は計画立案と試行を行う。

・真宗大谷派と連携した仏教、真宗の別科の設置準備：本学が強みとする女子教育と医療福祉系と協働した学びを可能とする真宗を学ぶ別科を開設できるよう、本年も真宗大谷派と調整を進める。

・建学の精神の具現化（「心の教育」の共有）：本学が基盤とする人間教育、すなわち智慧と慈悲を育む「心の教育」は一つの取り組み、一科目の授業によって達成されるものではない。建学の精神の具現化にあたっては、本学の教育訓「薫習」に示されるように、教職員自身が智慧と慈悲の実践者であることが求められる。教職員が仏教、真宗の考え方に触れられる機会を増やせるよう宗教部と真宗文化研究所で継続して検討を進める。

② 京都光華高等学校との高大接続

京都光華高等学校の医療貢献コース、未来創造コース、国際挑戦科とのスムーズな教育接続を目的に連携を強化する。放課後の学び「ビュッフェ講座」への講座提供を積極的に行い、各学科・専攻の専門教育の体験機会を創出し、将来の夢や目標に対して適切な進路選択の一助につなげるとともに、内部進学を促進する。さらに、リベラルアーツ科目を中心に実施している高大連携科目を将来的に拡充し、各コースに関連する専門教育における早期履修制度の枠組みの導入に向けた検討を始める。

内部進学促進のための各種イベントについては、進路決定の早期化傾向に合わせ、低学年段階から計画的に実施し、併設大学の学びの魅力や雰囲気をもっと身近なものとして結び付け検討する機会を設け、内部進学率の向上を図る。

③ 幼・小・中・高を含む併設校への支援と連携

大学での研究理論を併設の各校・園の教育の質の向上、実際の指導に生かすことを目的に結成された共同研究体制「光華論理プロジェクト」の活動を継続して行う。「論理的な思考力・判断力・表現力の育成」をテーマにした研修や、併設校との交流を通じた学びの接続の具体化など、授業研究活動を発展させ実際の指導に応用するとともに、共同研究の成果を全国に向け積極的に発信し、総合学園としての存在感を示すとともに光華の教育力をPRする。

(2) 教育・研究の質・体制の充実

① 学部・学科・研究科等の将来構想

心理学研究科

本研究科では、こころの専門家である「公認心理師」および「臨床心理士」養成を重要課題とし、現代社会のニーズにフィットした質の高い心理臨床家の養成を行う。ケース・カンファレンスとその後のフォローアップ、学内・学外での実習、スーパーヴィジョン等、院生一人ひとりに対する丁寧な個別指導を夏季・春季休暇期間も含めて継続的に実施し、心理臨床家としての柔軟な感性と対応力、専門的職業人としての素養と自覚を養っていく。さらに、修士1年生から国家試験対策を行うとともに、修士課程修了後も在籍できる研究生制度によって、「公認心理師」「臨床心理士」の両試験合格をサポートする（いずれも全国平均以上の合格率を目指す）。

修士論文等の研究指導については、全体（修士課程1・2年生合同）・グループ・個別といったさまざまな指導体制の充実、学会発表や研究紀要投稿等の研究活動の推奨により、研究の質と意欲の向上を図る。

看護学研究科

京都光華女子大学看護学研究科の特徴は、「看護職として臨床で培った経験知を、看護学の理論と応用として教育・研究する事により、社会のニーズに沿った保健・医療・福祉の向上に寄与するとともに看護の発展に貢献する高度な専門性を備えた人材を育成する事である」。

◆変化する社会環境から、自らの専門分野と他職種と連携・協働とする I PEは重要で、相互に連携したリーダーシップを求められている。臨床での「経験知」から問題・疑問を「理論知」として研究課題を解明し修士論文にする学びの過程から、「思考力・研究力」を育て、教育・実践の場で指導力や調整力発揮できる教育課程授業の充実を図る。

◆週2日授業日とし、1日は対面授業で、教員や院生同士のコミュニケーションの強化。1日はオンライン授業とし、多様な授業方法の工夫を行い、働きながら学ぶ看護者のキャリアアップを支援している。

◆今後の検討課題：①通学コース・通信コースの設置②看護学研究コースと受験資格取得コース実学教育の設置③学科の連携・他大学院との連携④実学を地域貢献可能組織の検討

キャリア形成学部

本学部は、経営学を基軸とし、Society5.0を目指す社会で活躍できる創造力と実践力を身につけたゼネラリスト人材の育成を目指す。データサイエンス、生活科学およびデザイン関連科目を強化し、2023年度には、専門応用科目の3領域（ビジネス、ホスピタリティ、ソーシャル）を経営学・データサイエンス、生活科学・観光・デザイン、現代社会学・地域公共という新たな3領域に拡充する。データサイエンス・グローバル・健康創造・京都まちづくりという4つの教育プログラム（パッケージ）を展開し、女性エンパワーメント科目や実践科目（プロジェクト、長期インターンシップなど）のさらなる充実を図る。

カリキュラム運営においては、対面授業を基本とした上で、メディア授業（オンデマンド授業）やオンライン学習コンテンツを効果的に活用し、学生個人に最適化された学びの提供とインターンシップやボランティアなどオフキャンパスの学びが活性する仕組みづくりを行う。

健康科学部

本学部は、地域社会のあらゆる面の健康を、多職種間で協働して創造できる女性の育成、さらに、得られた成果の社会実装を目指した研究、教育手法の革新などを通して、健康科学の発展に貢献する。本年度も、大学運営方針「教育・研究の質・体制の充実」各項目に沿い、各学科が直面する課題の解決と、学部再編を見据え、



各学科の特色を活かす改革に取り組む。また、「人間健康学群」の運営に参画し、「健康創造キャンパス」プロジェクトでは中心的役割を果たす。

a.健康栄養学科

管理栄養士専攻では、管理栄養士国家試験に合格する学力を養成するとともに、実践現場で即戦力として活躍できる管理栄養士を育成する。健康スポーツ栄養専攻では、栄養士ならびにスポーツ指導に必要な知識をバランスよく学び、健康寿命の延伸に貢献できる人材を育成する。加えて、中・高保健体育教諭の養成カリキュラムを着実に進める。2023年度の改革に向け、魅力あるカリキュラム構築を進める。

b.看護学科

2021年度より新カリキュラムと旧カリキュラムの同時進行が開始となり、適切なカリキュラム運用を進め、国家試験受験資格、養護教諭免許取得に向けた教育の充実をさらに進める。2023年度に向けた改革として、2022年度より学科独自の国際交流および同窓会の設立を目指すとともに、学科FDを活用した教育力の向上を目指す。また、他学科との専門職連携などの教育内容の再検討を行い、さらなる充実も図る。

c.心理学科

「臨床心理」「子ども心理」「社会・犯罪心理」の3コースにおける実践的学びを強化し、さらに学びの目的に応じたコース横断的な学び「plus」（公認心理師養成、女性のメンタルヘルス、光華オリジナル心理）の教育内容の充実を図る。進路につながる学びとして研修や課外講座を実施し、学生の就職・進学への意欲を喚起する。公認心理師養成課程、保育士養成課程では丁寧な指導を通して、専門職の養成に努める。

d.医療福祉学科

言語聴覚専攻では、3年次からの国家試験対策の実施や学年縦割りグループでの学生間交流による学習法の習得を通して国家試験合格率向上を目指す。また学生募集では専門職や在学生による言語聴覚士の魅力発信に努める。社会福祉専攻では、学生の地域活動への参加や教員の発信力の工夫による地域連携の充実や、国家試験合格率の向上のための本専攻独自の方策を強化する。医療福祉学科としては専門職連携の学びの機会の創出に向けて取り組む。

人間健康学群

学部横断型・文理融合型のカリキュラムとして「福祉と政策」、「人と心理」、「食べ物と栄養」の3領域を柱とする学びを展開する。個人の健康管理に関わる知識だけでなく、企業における健康経営や従業員の健康管理に関わる実践力、健康に関わる社会政策を考える力、産官学民の連携活動を繋げるリンクワーカーとしてのマネジメント力、英語教育や海外研修を通じたグローバルな視点を育み、社会的・精神的・身体的側面から社会および人の健康の維持・増進をマネジメントできる人材を育成する。入学者の確保に向けて積極的な入学広報活動、学びや就職先の分かりやすい内容紹介に努める。また、より魅力あるカリキュラムの検討、管理運営体制の構築を進める。

こども教育学部

本学部では、教育・保育分野で活躍できるよう、仏教精神に基づいて、慈しみの心をもってこどもと向き合い、こどもの心身の健康と知徳体の調和を育む教員・保育士の育成を目指す。このため、学部教育では、「A New Me !」を合言葉に、新しい自分を見つけるため、豊かな教養や高い専門性（専門的知識・技能）および実践力を身に付けるとともに、主体的に学ぶ力を養う。また、魅力ある学部づくりのため、英語等の言語活用能力や情報（ICT）活用能力を育成し、小学校英語指導者資格（J-SHINE認定）、認定絵本士などの新たな資格取得にも取り組み、学生のキャリア形成を効果的に達成する。

教員においては、学生の主体的な学びを促し、学ぶ喜びを感じることができるよう授業改善を行い、教育の質の向上を図る。そのため、指導ツールとしての「ロイロノート」などICT活用やQFT推進をはじめ、指導力向上を図るための取組を進める。また、大学間連携や外部資金導入による研究を積極的に進め、自らの研究力の向上にも努めるほか、併設の幼稚園・小学校・中学校・高等学校との共同研究を推進する。

教職・保育職への就職目標として、公立幼保教諭および公立小学校教諭の合格率UPをめざし、教職・保育

職支援センターやとの連携を強化するほか、近年の学生の教育ニーズの多様化・高度化に応えるため、京都連合教職大学院への進学を支援する。また、喫緊の課題である志願者数増にむけ、高大連携事業の推進と広報活動の強化に努める。

短期大学部

ライフデザイン学科は、「2年間で4年分の成長」をコンセプトに、教育の内容と質を時代の変化を先取りするものに改革していく。また、「ライフデザイン・コンピテンシー」を軸としてカリキュラムの体系化と質の向上を目指す。さらに、産学連携プロジェクトを強化し、教育内容の向上と就職先の新規開拓を目指すとともに、募集活動にも活用する。高校生だけでなく、既卒者、社会人、留学生の受け入れ、ならびに秋入学者の受け入れを強化して定員の充足を目指す。

学生の成長を促し、生涯学び続けることができる自律した女性を育成するために、学生が「何ができるようになったのか」について自己評価と省察を行う学習ポートフォリオを「光華メソッド」の柱の一つとして確立し、全学的な教育マネジメントおよび教育の質保証の担保に繋げていく。

学生へのサポート体制としては、就職・進学・留学など学生一人ひとりが自分にあったライフをデザインできるよう、教員は、常に学生に寄り添い、日々の目標設計から学習指導、進路指導まで親身に取り組む。

助産学専攻科

学部教育から始まった助産師教育を、2018年度より専攻科に改組した。当初の3年間は、学部と専攻科が並行したが、2021年度より専攻科1本となり、学生の定員数も5名から10名となった。10名の定員枠は、若干名の内部推薦入試者と一般入試選抜者である。一般入試は当初、1次・2次試験と2回実施していたが、志願者増により、2022年度の入試より1次試験のみとしたが、2倍以上の志願者があり、また合格者からの辞退者も認めていない。今後カリキュラムの充実に努め、在校生・修了生からも専攻科の魅力が伝わる学校に努め、一般入試の倍率を、2.5～3.0倍とする。

コロナの影響により、対面とオンラインを上手く使い分け、学修者本位の多様な教育の提供に努める。臨地実習については、教育効果を考えると、実習施設の協力が得られれば対面で実施し、実践的な思考能力（総合的に色々なことを把握する力、気づきなど）を養う。

2022年度、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の変更に伴い、カリキュラムを編成した。カリキュラムを通して、次代に求められる助産師の育成を今後も目指す。また、助産師国家試験の合格率100%を維持する。

リベラルアーツセンター

リベラルアーツ教育の主目標である、生涯を通じての人間形成を見据えて、光華のリベラルアーツ教育の目標を「思いやりの心と創造力を兼ね備えた人材の育成」に置く。教育の基盤となる「仏教の人間観」と「京都光華の学び」の上に立って、伝統文化、実用英語、健康スポーツ、AI・データサイエンスを重点分野とする。教育内容の充実と教育方法の開発を着実に遂行することによって、人間性の涵養と実用能力の養成に資する学習内容を準備し、BYOD環境での適切な教育方法を構築する。具体的なターゲットとして、論理的な読解力と思考力を測るリーディングスキルテスト(RST)の有効活用、eラーニングと対面でのタスクベース・ラーニングの組み合わせによる実践的な英語力向上を強力に遂行する。「情報リテラシー応用」を核として、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）を提供する。授業方法の拡充・開発として、オンデマンド授業の導入（京都光華の学び）、ロイノートやTeams等のオンラインコミュニケーションツールの積極的な利用（アカデミックスキル入門）等を継続する。

② 基幹研究の展開（研究力の向上、人材育成支援事業の獲得）

SDGsならびにSociety5.0の実現に向けて、また、2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）に向けた「TEAM EXPO 2025」プログラムの共創パートナーとして、デジタルを活用した高度専門人材の育成、産官学連携による基幹研究を推進する。基幹研究においては、「健康・未来創造キャンパス」の実現に関わるプロジェク

トを「よりそい」を科学するというキーコンセプトのもとに推進する。

・光華もの忘れ・フレイルクリニックと連携し、看護・医療福祉・健康栄養・心理分野における課題解決に向けた研究を推進し、地域連携・多職種連携の活性化を図る。

・女子アスリートの健康に関わる研究を通して、最適な強化手法や女性の健康管理、運動習慣を図る取り組みを考える。

・産官学連携によるデジタルを活用した教育・専門人材の育成、食のバリアフリー化、フードテック、ヘルステック、フェムテックの活用等、子どもから高齢者までさまざまな人が抱える課題の解決に向けた研究活動を推進する。

③ 学修・学生支援体制の向上

学修支援では、ハイブリッド型授業を引き続き推進し、特に学生の状況に応じてハイフレックス型授業の有用性が発揮できるよう、さらにサポート体制の充実を目指す。また、学習ステーションでは「リベラルアーツ教育科目」との連携を模索するとともに、学生主体のピアサポートシステムを充実させ、授業外学習支援体制の確立を目指す。

教職・保育職支援センターでは、教員や保育士採用試験対策と合格者の増加、関係学部との連携を強化し、ボランティア活動やインターンシップなどで培った実践力やコミュニケーション力を学生の自信へと繋げ、挑戦できる人材を育成する。

学生生活全般に関する学生のメンタルヘルスについては調査結果等を踏まえ、学生支援体制の充実を図り、退学率抑制および学生満足度向上に努める。特に要支援学生、健康管理等の支援は、学生サポートセンターが中心となり、関係学科・部署間で情報共有、連携、相談のワンストップ化により支援体制の充実を図る。また、公的奨学金制度を踏まえた本学奨学金の支給基準の見直しを行い適正化を図る。

この他、学生サポートセンターは人権啓発センターと協力し、ハラスメントの相談窓口等を周知し、学生の苦情・ハラスメントに適切に応える。

④ 光華独自の教育・指導法（光華メソッド）の確立

主体的・対話的で深い学びの視点から教育支援ソフト（ロイロ・ノート等）の普及や、質問駆動型の授業展開（Question Formulation Technique の活用）、脳科学の知見に基づく教育手法の展開等、学生一人一人の可能性を引き出し伸ばす本学独自の教育・指導法（光華メソッド）を普及させる。また、学修成果の可視化システム（DP達成評価システム等）の全学的展開を検討し、学修成果の把握と教育活動の点検評価につなげていく。GRITの強化（GRITは後天的に獲得可能なやり抜く力）とMindsetの転換（能力を褒めるのではなく努力を褒める）にも留意しつつ、ポストコロナにおけるDX（Digital Transformation）を活用した対面・オンラインのハイブリッド型授業の発展、数理・データサイエンス・AI教育や新しい英語教育プログラムの導入、光華もの忘れ・フレイルクリニックを活用した多職種連携プログラムの導入等を実現する。

⑤ 他大学との連携（共同授業・研究等）の強化

他大学との連携により、それぞれ優位な教育研究資源を結集し、共同でより魅力ある教育研究・人材育成を実現することを目的に、学生や社会人に対して、多様な教育プログラムを提供できるよう検討する。教育課程の充実を主眼に、他大学との遠隔授業の実施を準備し、共通授業、交換授業等の導入を推進する。これにより、カリキュラムを充実させるとともに、教育・研究における選択と集中を図る。また他機関との共同研究を通して、研究者同士の交流や研究力の向上につなげる。コンソーシアム京都との連携強化として、単位互換やインターンシッププログラムの提供、高大接続等の参加をはじめとする、プラットフォームへの積極的な参画を継続し、「（公財）大学コンソーシアム京都中長期計画『第5ステージプラン』（2019-2023）」の各種取り組みと連動・連携を推進する。

⑥ 就職・キャリア開発・地域連携への支援強化

就職支援センターでは、「新卒は一生に一度」であることを大切に、一人でも多くの学生が第一希望に内定できるよう、分かりやすく・きめ細やかな就職支援を実施する。就活月間には、就職ガイダンスを中心にOG懇談会や企

業セミナー等を開催する。また、新たな就職支援管理システムである「コーキャリ（キャリアスUC）」を活用し、有益な情報収集・提供に努め、多様な学生のニーズに応えていく。

女性キャリア開発研究センターでは、女性の就業継続、キャリアアップを支援するための調査研究を継続し、地域連携推進センターとともにリカレント教育（ビジネス系プログラム、ケアワーカー育成プログラム）の充実に取り組む。また、男女共同参画視点のキャリア教育と減災教育を実践し、性教育プログラムの開発に着手する。



地域連携推進センターでは、学まち連携大学事業の目標でもある「まちやキャンパスの活用」として、地域ニーズに応じた公開講座を実施する。「健康創造キャンパス・エコキャンパスの取組みの周知」とセンターが主幹する科目「産官学連携プロジェクト」の参加者を増やし地域社会との交流による活気あるキャンパスを目指す。「TEAM EXPO 2025」共創パートナーや共創チャレンジを創出している各団体とも連携を深めつつ、地域連携活動を推進する。

⑦ 研究支援体制の充実

個人研究、特別研究、学術刊行物出版助成、学会発表補助、基幹研究等の研究支援を継続する。これら学内の支援による研究を基盤にして外部資金獲得につなげ、前年度と同様、科研費申請を奨励するインセンティブ制度の継続や、学内説明会を開催し、申請件数および採択件数の増加を図る。そのための申請支援施策として、研究アドバイザー等による申請書類の書き方、申請内容についての相互レビューを含む研究会の実施を継続しつつ、URA機能組織の構築を検討する。また、科研費以外にも寄付金を含めた外部資金獲得の増加を目指し、支援体制の強化を図る。

⑧ キャンパスのグローバル化の推進

国際交流センターでは国際交流委員会と協働し、グローバル化社会に対応できる人材育成のため、異文化を理解するとともに、柔軟性や問題解決能力を養っていけるよう、さまざまな機会を提供していく。

そのために、目的別海外短期研修（語学、文化体験等）や各学科のニーズに合わせた海外専門分野研修のオンライン実施を推進し、コロナ収束後も渡航型とのハイブリッドでより効果的な学びが得られるよう基盤づくりを行う。加えて、長期・ Semester 留学、短期大学部留学制度における協定校のさらなる拡大を図るとともに、オンラインによる有益な留学の在り方を検討していく。

また、外国人留学生の志願者増のため、日本語学校とのネットワーク強化、交流会・相談会等へ積極的参加等、募集広報活動に注力する。さらに、本学との接点づくりのため、近隣の日本語学校との交流イベントや海外協定校からの短期受け入れも強化する。

その他、COIL（国際協働オンライン学習プログラム）型教育の導入、社会人・地域連携向けのプログラムについても検討していく。

⑨ 図書館・真宗文化研究所・カウンセリングセンター・人権啓発センター・光華もの忘れ・フレイルクリニックの事業計画

図書館

本学の建学の精神である仏教の思いやりの心に基づく健康・未来創造キャンパスの実現を支援するために、専門分野に対応した図書・雑誌の充実を推進する。教育のICT化に合わせてデータベース、電子図書を整備する。これら教育資源の効果的な管理運用を行うことによって、学術情報基盤としての役割を果たす。ラーニングコミュニティ「学Booo」に積極的に取り組み、多角的な教育活動の一端を担う。地域社会への貢献の一環として、図書館の社会人利用や卒業生、高校生女子の図書館利用を継続し、ホームページなどで広報する。

真宗文化研究所

真宗文化研究所は、学園創設の建学の精神と校訓「真実心」に基づき、真に生命力をもつ真宗文化の本質、使命の探求、本学園の宗教教育の在り方、現代社会の諸問題への対応等を考究し、学内外へ啓発、訴求することを目的としている。

この目的を達成するために、仏教や真宗に関する研究、調査はもとより、広く学内外に開かれた研究所として、公開講座「光華講座」、「聖典読書会」（マインドフルネス講座）、「オンライン仏教講座」を本学園の学生、生徒、教職員のみならず、一般の方々も対象に開催していく。また、学内外から講師を招き「宗教講座—豊かな人間性を目指して—」を年5回開催する。さらに本学の学生および教職員を対象とした浄土真宗ゆかりの地を中心として仏教関係の史蹟を訪ねる「聖蹟巡拝」を実施し、仏教・真宗への理解を深める機会とする。

継続的な研究活動としては、委嘱研究員制度に基づき研究員を学内外から公募により委嘱し、その研究成果を広く公開する。また、特別研究員、並びに客員研究員制度などの研究員制度を生かし、研究機関としての機能を高める。また、建学の精神の具現化に向けた宗教教育、仏教教育の在り方について、とりわけ仏教と実学の関係について研究を推進する。

本研究所の研究活動と本学の宗教教育の実践を学内外へ公開するため、刊行物として、「光華講座」の講演録と研究員の研究成果である論文を掲載する年報『真宗文化』および「宗教講座」の講話録である『眞實心』を発行する。同時にこの講演録、研究論文を一般の方々にも閲覧していただけるように本学リポジトリと本研究所ホームページに公開する。

カウンセリングセンター

カウンセリングセンターは地域社会に開かれた「こころの相談室」として、「子どもと女性の心に寄り添う」ことをモットーに、心理的援助を必要とされる方の気持ちに寄り添ったカウンセリング（個別の心理相談）を行う。また、本センターは大学院（心理学研究科臨床心理学専攻）附属の実習施設として、「公認心理師」および「臨床心理士」養成課程における重要な役割を果たしていく。

カウンセリング等の相談業務に加えて、本センターが実施している親子教室では、就学前の子どもと保護者のふれあい遊びを行う「ひかりっこ＊くらぶ」と、子育て相談の「こもれびスペース」により、子育て支援への社会的ニーズに応えていく。その他、本センターでの相談業務や教員・大学院生の研究報告の場として毎年発行している「京都光華女子大学カウンセリングセンター研究紀要」を、2022年度も引き続き編集・発行する。

人権啓発センター

学生、教職員の一人ひとりが心理的、身体的に安全かつ快適な環境で勉学や研究に専念し、全ての人の人権が尊重され、お互いが相手の立場を重んじることができるような良好なキャンパス環境の維持となるように人権に関する啓発活動に取り組む。そのため、主に学生を対象とした「人権映画鑑賞会」「人権講演会」では、身近に起こりうる人権問題、あるいは、社会的な人権問題への認識等に着目したテーマ選定を行っていく。また、教職員対象の「人権研修会」については、教育活動に有益なテーマを宗教・人権・真宗文化委員会と協議のうえで設定し本年度も継続して実施する。

そして、ハラスメントのないキャンパスの維持を目指して、セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメントなどを含めた全てのハラスメント防止となるよう、引き続き、啓発冊子「ハラスメントのないキャンパス・ライフ」の配付を行う。

光華もの忘れ・フレイルクリニック

光華もの忘れ・フレイルクリニックは2021年11月、京都光華女子大学のキャンパス内に開院した。本クリニックは、大学内に設置されるクリニックという、全国でもまれな形態のクリニックである。学内設置により、本学の言語聴覚専攻、社会福祉専攻、看護学科、栄養学科、心理学科などの医学臨床に関わる人材教育において、学内での実習、あるいは多職種連携の習得という、他校に類を見ない本学の独自性を生み出すことが可能となっている。

また、認知症につながる骨粗しょう症や運動機能低下、栄養不足等の予防対策に力を入れていくことで、本学が力を入れているSDGsの取り組みとして「すべての人に健康と福祉を(SDGs3)」の達成を目指し、地域の健康福祉

に貢献することを目指す。その中の取り組みとして、すでに本年度中に、クリニック主催の健康に関する講演会を予定しており、来年度以降は、クリニックを中心として、上記の各専攻・学科からそれぞれ講演会を持ち回りで行うことで、地域の健康福祉にさらに貢献し、クリニックについては本学のプレゼンスを高め、外来患者数についても改善を目指す。

(3) 経営基盤の強化

① 志願者増につながる戦略的募集・広報活動

2023年度入試募集戦略において、「志願者数の全体の底上げ」「志願者の早期獲得」「安定的なパイプの形成と新規層の獲得」を三つの活動方針と定め、入学志願者の増加、ひいては、全学科・専攻での入学定員充足を目指す。広報活動においては、「人々の健康と未来を創造する女子大学」という新たなブランドイメージの構築、周知、浸透させるための新キャッチコピー『For Future Well-Being』（校訓「真実心」のもと、「すべての人が健やかに暮らせる＝“Well-Being”」な未来の実現を目指し、地域に開かれ、人々に寄り添う人材育成拠点として社会の要請に応える大学）を掲げ、2023年度以降の学部学科の改革や改組・新設などを含む本学の目指す方向性について、期待感が膨らむ広報展開を徹底的に行い、知名度・認知度を向上させ、京阪神地区における唯一無二のポジションを確立する。募集活動においては早期仕掛けによる年内入試の志願者獲得に注力し、現場ニーズに即した丁寧な高校訪問、志願意欲を掻き立てるオープンキャンパス等のイベント運営、普段の学生の姿や教員の研究成果などのとめどない情報発信、受験生によりそう入試制度設計など、全学をあげて教職協働で取り組む。さらに、安定的な入学志願者の獲得につながるパイプの形成施策として、独自の高大接続プログラムの開発・提案や、地方へのUターン就職を見据えた入試・奨学金制度の創設など、新規層を開拓することで志願者層の裾野を広げ、入学定員充足を目指す。



② ガバナンスコードの策定と運用

私立大学として主体性を重んじ公共性を高める自律的なガバナンスを確保し、より強固な経営基盤に支えられ、私立大学の教育・研究・社会貢献の機能の最大化を図り、社会的責任を全うするため、2019年度にガバナンスコードを策定した。2021年度より学長の補佐職として学長特別補佐を設置し最新情報をホームページにも公開している。

今後も経営力強化と経営の透明性向上に努め、社会の理解と支援を得るために、自主的な行動基準となるよう、ガバナンスを強化していく。

③ SD実施強化の検討

教職員のモチベーション向上やコンプライアンスを徹底するSDを実施するため、教職員を対象に、階層別・分野別にSDを実施する。また全教員が出席する全学教授会にて、研究倫理の徹底、ハラスメントの防止、個人情報の保護と情報セキュリティの徹底、公金意識の徹底など、コンプライアンス遵守、教職員のモチベーション向上などの内容で定期的実施していく。SDを通して、建学の精神と教育方針への理解を徹底するとともに、高等教育への社会からの要請に対し理解を深め、組織力の向上に取り組む。新任教職員については4月に研究倫理、ハラスメント防止、本学独自の研究支援などについて理解を深めるための研修の機会を別途設けている。

④ 大学・短大における基金の設立

本学を支えるステークホルダーへの訴求力を高める方法を確立し、同窓会との連携強化（学生募集・在学生の就職支援）を含めて、法人の枠の中において、大学・短大における教育・研究に関する基金を創設し、学生の保

護者や卒業生、地域の企業や各種団体より寄付を募り、「基幹研究」をはじめとする社会の要請に応える各種研究の費用の一部に充てることを検討する。また、コロナ収束後に大学関係者による同窓会の総会や支部会への参加を再開し、大学の教育・研究への理解を得るとともに、共同事業（大学イベントへの参加、リカレント教育、在学生との懇談会、調査研究、ビジネスにおける連携、まちやキャンパスの活用など）を推進する。

2. 高等学校

(1) 光華一貫教育の創造

① 建学の精神に基づく宗教教育

本校では、建学の精神のもと、校訓「真実心」を具現化すべく“心の教育”を教育目標の筆頭に掲げ、教職員及び生徒が実感できる具体的な施策を行う。そのため、現在取り組んでいる学校改革（小中高構造改革）において、2022年度「新生光華」をスタートさせるべく、教育内容の抜本的見直しを行っている。とりわけ、仏教教育を基盤に据え、伝統文化教育や礼儀マナー教育、異文化理解教育、言語教育を用いて、本校に入学したすべての生徒や児童が享受できる全人・教養教育として、「光華リベラルアーツ」を策定し、小・中・高一貫した宗教教育プログラムを作成し、「光華の心」＝「心の教育」の育成をより一層深化させていく。改革元年2022年度は、昨年度から本格実施した生徒による放送朝礼や毎週水曜の朝のzoomによる礼拝を更にブラッシュアップさせる。生徒による朝礼や教員や生徒による感話の内容を充実させ、本学が謳ってきた「薫習」を実践する。今年度は、生徒運営の定着化を図るなど、自発性のある生徒集団を目指す。併せて、日々の言葉や三帰依文の唱和などを通し宗教心を涵養し、宗教教育の浸透した落ち着いた校風や慈悲の心の実践を図っていききたい。

また、地域共生を主眼とし、生徒会が主体となって行うボランティアや募金活動の定例化を図っていききたい。教職員自ら仏教理解を深めるべく、学園内宗教教育（宗教行事や宗教講座等）への積極的参加を促し、宗教者等による研修を実施して、人としてあるべき姿を教職員の日常の姿で伝えていけるよう研鑽を積む。

② 体験・探究学習×教科学習×EdTech

本校では、2020年度入学生から個人デバイス（surface go）を必須化し、全教育活動において利用を促進している。2022年度においては、全学が個人のデバイスを持つことになる。光華Edtechをさらに推進すべく、主体的学習・双方向授業ツールとして、「Meta Moji」を活用し、授業等でのICTを使った双方向型授業を更に推進する。また、2022年度からの構造改革では、体験型、探究型、協働型学習を各授業の中で取り入れ、生徒の思考力・判断力・表現力を高めていく。

探究活動においては、「京都+ベンチャー」を1年生全クラスで実施する。教科学習については、習熟度別・補完学習を目的にデジタル教材「classi」を導入・運用していくが、更に、「Atama+」を導入し、自主学習を促進し、基礎学力の目標数値を一人一人に与え、学力向上を図るとともにPDCAサイクルによる管理の徹底を行っていく。放課後のビュッフェ講座においては、京都光華女子大学との連携を密にし、より魅力的で実践的な取り組みを増やし、大学での学びを先取りし生徒の満足度向上を図るとともに、各コースの充実につなげていく。また、放課後のStudyHallやEnglishcommonsでの取り組みを充実させることで、生徒の主体性を育み、進路開拓に繋げていく。

③ 言語活動と異文化理解教育

全教育活動の中で図書館活動の機会を増やす取り組みを行う。2022年度においては、図書館での教育活動機会をさらに増加・充実させ、全教科図書館での授業を実施していく。また、京都光華女子大学と連携し、論理的思考力向上に特化した研修会を設け、授業内での「光華論理」（光華メソッド/論理的思考力）、深い学びの実践「DAL」（Deep Active Learning）の定着を図るとともに学校行事や探究活動の中でのディスカッション・

協働を強化し、言語活動を推進していく。

異文化理解教育では、異文化理解教育発表会（旧称：英語教育研究発表会）を実施し、年間を通した諸活動での体験談を生徒自らプレゼンテーションする機会を設ける。また新しくEnglishcommonsを開設し、外国人留学生を常駐させ、英会話の実践や異文化交流を実践する場として活性化していく。そして、留学生、帰国子女の受け入れ態勢をより充実し、諸外国から生徒を受け入れるための体制作りと募集に向けた広報活動を展開していく。さらに、アジア圏、北ヨーロッパ方面との生徒交流をより促進していく。（研修旅行/探究/国際交流など）

（２） 教育研究体制・質の向上

① 教育体制・運営体制、研究体制、中学校・高等学校のコース改革のあり方

2022年度学校改革において、従来型学校運営からの脱却を目指し、パラダイムシフトで学校改革（小中高構造改革）を推進する。2022年度においては、「構造改革期」として具体的な教育の中身、コース、募集広報、人事・組織を抜本的に見直し、2023年度への更なるダッシュをかけるべく、新コースの中身の更なるブラッシュアップに努める。改革にあたっては、新教育の取り組みを学校組織の中に落とし込み、全教職員が協働しながら学校改革をさらに推進していく。その上で、改革が始まったとしても、業務のスクラップは基より、当たり前を疑い、ゼロベースでの発想で思考し、よりよい学校改革を目指す。各コースは、主体的にコースの目標数値や具体的結果を設定する。各教科においても、教科毎の目標数値、具体的結果を設定し、協働して目標実現に取り組むとともに組織を円滑に運営するため、PDCAによる管理を徹底する。さらに、全教職員参加型運営の観点から教職員の前向きな意見を吸い上げ、実現を検討していく。進路指導については、各コースの生徒の希望進路の実現を徹底的にサポートすべく進路指導体制を強化していく。

② 働き方改革に向けて

働き方改革の推進については、管理職による業務分担の偏重チェック体制（各部/各個人の業務の偏り）を確立していきたい。職員室の完全閉室時間については、20時完全退室（施錠）を行う。また、変型労働時間制シフト内での時差勤務を導入すると同時に、2021年度導入した週休2日制（隔週平日半日休暇）については検証を行い、昨年度の問題点や改善点を取りまとめ、労働環境の改善に努める。また、労働時間の短縮だけでなく業務に充実感が感じられるよう、業務分担と組織体制から検討を始める。更に、検討を続けてきた課外活動（クラブ）の指導の外注化をスタートさせ課外活動への負担を軽減する。

教職協働に推進については、2022年度から始まる新コース・新教育について、教員と事務員が協力して講座開発や外部組織との交渉・契約にそれぞれが役割を果たすことで、高校全体の教育力をさらに高める。

（３） 教育環境の充実

① ハード面、ソフト面での環境整備

教育研究に充実に向け、学校業務のICT化を推進すべく、2020年度入学生から教育プラットフォーム「classi」を導入しているが、2022年度においても、活用範囲をさらに拡大させ、円滑な運営・実施を行っていく。また、探究学習の推進については、現実社会と連動しながら「生きる力」を育む教育プログラム「クエストエデュケーション」を引き続き活用し、探究学習の推進とともに教員の授業サポートを実現する。また、昨年度、校内全館Wi-Fi化に伴い、生徒への個人デバイス（年次進行）の活用幅を広げるとともに光風館図書館の改修を行ったことで、図書館教育の充実と探究教育の充実や理科室の専門別教室を活用し、より高度な専門的な教育活動を行う。

教職員研究環境については、学園による研修補助制度の活用を促進し、自己研鑽に努める教員の姿勢を評価していく。2022年度については、「京都+ベンチャー」については、神戸大学の石川先生、光華メソッドの確立には光華女子大学の谷本先生、英語の教科研究には田縁先生や賢明学院の中村先生にご指導いただき、計画

的な研修計画の元、実績をあげていく。

また、「classi」の活用拡大に伴いメール配信システム「めるポコ」を廃止して、オンラインによる連絡システムを一本化する。タブレット導入が進んだことにより、第1情報室の利用方法について廃止又は改修について検討を進める。最後に、新棟が完成し、小中高の真ん中に位置する光風館の一室に小中高のHealingplaceを設置する。教室に入りにくい生徒、誰かに話を聞いてもらえれば落ち着ける生徒など、日々の学校生活で困り感を抱えた生徒がほっと一息できる場所を、生徒達が行きやすいところに置くことで、安心感をもって日々生活できるようにしていく。Healingplaceには、支援員・SCが常駐し、気づきサロンも開くことができるようにする。

(4) 経営・運営基盤の強化

① 志願者増・入学者確保につながる戦略的募集・広報活動

2019年度期中から小中高学校改革に向けた検討に本腰を入れて取り組んでいる中、2021年度以降小中高構造改革（組織・制度改革等見直し）と連動し、小中高入試広報部の運営体制をさらに強化する。（戦略的な募集計画/人事配置/業務分担/設置校別担当制等）また、学校ブランド力向上の妨げとなる奨学費依存型募集（学業/スポーツ）からの脱却を目指していく。（選択と集中による効果的な奨学費の活用）2022年度から始まる「新教育」や「新設備」を利用した教育実践を具体的に提示する。特にHPやSNSを駆使したアップデート型の提示を行い、即時に発信することを意識して広報する。

また、オープンキャンパスなどの募集イベントでは来校した全受験生保護者に「京都光華がよくわかった」「楽しい雰囲気だった」という2点を必ず感じてもらえるようなイベント内容にしていく。そのために①ゴール（例 6年後の姿、卒業後の姿、職業）を示し、過程を可視化する。②生徒のアイデアを取り入れる、生徒が発信する、生徒の姿をOCで見せる等「Student Centered（生徒中心）型」提示という2大ポイントを念頭におきつつ、アンケート分析に基づいて内容を検討する。

具体策としては以下の7点を挙げる。

- a. コース特化のオープンキャンパス開催（メリハリをつけたコース宣伝）
- b. 「放課後学び」特化のオープンキャンパス開催（1週間放課後を開放し、実際に活動している様子を見てもらい、入学後の自分をイメージしてもらう）
- c. 募集においてキーになる塾との連携を丁寧に行い、塾の信頼を得る。
- d. ソロオープンキャンパス（個別説明会）の促進、充実。
- e. 外部相談会において、来場者の目を惹くブース設置。
- f. 公立中学校対象の学校説明会を開催し、中学の信頼を得る。
- g. 出張授業の営業強化、宣伝を進める。
- h. より多様な生徒を募集するため、海外帰国子女生徒対象のオンライン説明会を利用する。

入試広報部員だけでなく、全教職員が一致協力して募集イベントや広報活動に携わる意識が持てるように常日頃から情報の共有、協働体制、ツールを構築していく。

3. 中学校

2022年4月「“新生”京都光華中学校」がスタート。

新たな教育(オリジナリティあふれる創造的な取り組みにチャレンジ)の試行、実践の年である。

(1) 光華一貫教育の創造

① 建学の精神に基づく宗教教育

2021年度から新学習指導要領が中学校で全面的に実施となっている中で、特別な教科「道徳」に代わる「宗

教」の時間において、校訓「真実心」を具現化するための見直しを行ってきている。

2022年度に「新生光華」をスタートさせるべく、教育内容の抜本的見直しを行う中で、とりわけ、仏教教育を基盤に据え、伝統文化教育や礼儀マナー教育、異文化理解教育、言語教育を用いて、本校に入学したすべての生徒や児童が享受できる全人・教養教育として、「光華リベラルアーツ」策定し、小・中・高一貫した教育プログラムの運用を始める。「光華の心」=「心の教育」の育成のより一層の深化を目指す。

教職員においては、共通認識・理解のもと一貫した指導ができるように、各種宗教行事の実施要項を整備する。また、実施要項等を再確認することにより、新たな指導内容や指導の視点についても検討し、小・中・高において共通実践ができるようにする。

地域とともにある学校、地域を支える学校として、中学校における生徒会組織改編を見通しながら、生徒自身が主体的に積極的に地域貢献活動等に取り組めるようにしていく。また、日常的な活動においても、環境問題をはじめとするSDGsを意識しながら地域共生活動の推進を図る。

毎月定期的に生徒朝礼を継続していく。内容は、生徒が主体的に企画し、生徒が生徒に対してさまざまな働きかけを行う機会とする。生徒自身が働きかけることや生徒自ら企画することにより、考え方に違いがあることやお互いの存在を認め合う機会としながら、生徒の穏やかで落ち着きのある心の状態をつくるようにする。

Zoomによる中高合同の礼拝を2021年度に引き続き開催していく。生徒による感話の内容についても「宗教」の時間との関連を持たせるなど充実を図り、「光華」で学ぶことの意義を実感させる時間にもする。学園内宗教教育（宗教行事や宗教講座等）や東本願寺における宗教行事への自主的かつ積極的参加を促し、仏教理解を深める。また、宗教者等による研修を計画的に実施し、自己の心を見つめる機会の創設にも努める。



② 体験・探究学習×教科学習×EdTech

2021年度より幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学が一体となって「光華メソッド」の確立に向けた研究に取り組んでいる。本年度も研究を継続し、「光華メソッド」が誰にでも形として見えるようにしていく。

2022年4月から、中学1・2年生が新棟に入ることになる。新棟では、2教室に1か所、自由なスタイルでの学びを実現するためのコモンスペースが設けられている。教室の廊下側の壁は全面開くことも可能となっており、今までにない様々な体験や探究活動の展開が可能となっている。あわせて、2022年度から全学年でデバイスを持つこととなるため、デバイスの活用率等を上げ、講義型授業からさまざまな授業スタイルを導入し、論理的思考を促す活動を多く取り入れていく。新たに使用する授業支援アプリ等の検討や授業での活用方法の検討も継続して行っていく。独自教科「京都アドベンチャー」における探求学習も進めながら系統的な宿泊研修や3年での探求旅行につないでいく。本校の独自教育の一つでもある伝統文化教育については、伝統文化の時間だけの活動にとどまらず伝統文化の教育効果を教科横断的に捉えていくことができるようにカリキュラムの工夫改善を新1年生から進める。



新1年生からスタートさせる始業時の「Mタイム」、放課後の「Sタイム」を充実させていくとともに、放課後のチューターを配置した自習制度も有効に活用させ学習のより一層の満足度を上げていく。これからの社会に求められる人間力を身に付けていくために各学年に応じた文理融合した教育テーマを設定し、論理的思考力を促しながら探究活動を推進する。個々の学力を保証するために個別学習をより一層推進していく。

③ 言語活動と異文化理解教育

多様性を理解しつつ独自教科「京都アドベンチャー」における「京都理解」「フィンランド理解」においてもデバイスを積極的に活用していく地元企業である株式会社わかさ生活の協力によるフィンランド理解推進教育について再開させていく。フィンランドの小学校と姉妹校締結を結ぶ小学校とも連携を図りながら、得られた情報の多面的なアウトプットを図る。フィンランドのポルヴォー市の小・中学校とデバイスを通じた交流活動を推進するとともに、可能な範囲で教員のフィンランド訪問も促し、世界的な教育大国といわれるフィンランド教育の良さを本校に取り入れていく。伝統文化教育を推進する本校の強みも併せて発信し、「京都光華の英語」を目指す英語力の強化も図る。光華教育の特色の一つである伝統文化教育で学び身に付けたものをフィンランドの相手校に対しても発信する。図書館では、各教科において有効活用し、読解力、表現力等の学びの深化につなげる。



(2) 教育研究体制・質の向上

① 教育体制・運営体制、研究体制、中学校・高等学校のコース改革のあり方

2022年4月からスタートする新教育において新たな取組となる学力の定着を促進するための始業時の「Mタイム」、放課後の「Sタイム」を充実させていく。また、コースのないメリットを最大限生かすためのひとつである2つの授業スタイル「Gスタイル」「Jスタイル」などやるべきことにしっかりと取り組んでいき学期ごとに実施状況等について検証等も行っていく。

2021年度より実施している学年担任制を継続し、生徒に対して多面的な指導体制ができるようにすることで、光華ならではの学校づくりを進める。小学校・中学校・高等学校が一貫した教育体制となるように、全教職員が参加・協力して教育内容、募集広報、人事・制度の抜本的見直しを図る。光華の良さを残しつつこれからの時代に対応していくことのできる人材育成を行う新たな「光華」の姿づくりを進める。

② 働き方改革に向けて

管理職を含めた組織体制の見直しを行った上で2022年度をスタートさせていく。組織のスリム化を図りながら風通しの良いコミュニケーションが取りやすくスピード感をもって校務が進めていくことができる体制づくりを進めていく。毎年実施している学校行事について大幅に見直しを行い、行事を基本的に土曜日に集中させていく。時代の変化とともに実施の必要性や内容の変更等も含めて継続して検討・修正していく。また、各種行事を実施する場合に実施までの流れなど必要に応じて改善を図る。

2021年8月から教員の資質向上のための補助制度もスタートしたことから、長期学校休業期間中において、自己研鑽を働き掛けていく。働き方改革を着実に進めるために、課外活動（クラブ）の在り方を見直して実施する。併せて、生徒の活動の場を確保しつつクラブ数の適正化についても継続して検討する。2019年度より導入された新たな管理職である「部長」制について、中学校では2部長であったものを組織のスリム化の視点から「中学校部長」のみとし、改めて業務内容を明確化するとともに、学級担任、各校務担当内容、日常業務内容等についてのチェックができるようにし、業務負担のバランスをとる。

2021年度から導入した週休2日制（隔週平日半日休暇）を確実に実施し、働き方改革を推進していく。また、教職協働を推進するために、「当たり前」を見直し、フラットな組織づくりや各担当間や部署ごとの意見交換がしやすい雰囲気づくりに努める。

(3) 教育環境の充実

① ハード面、ソフト面での環境整備

2022年4月から中学1・2年生が新棟に入って学び始める。新たな光華教育のスタートととらえ、2教室前のひとつあるコモンスペースに加えて廊下側の教室の壁が全開放するなど今までにない授業の展開が可能となる。



「何のために何をどう使うのか？」教育環境が何のために変化しているのか見える授業づくりも必要と考えている。教育方法の変化に対応した研修も計画的に実施する。2021年度から教育プラットフォーム「classi」等の導入で学校業務のICT化ならびにペーパーレス化を進めることにより教職員、生徒、保護者の事務負担軽減を図るとともに、学校と保護者間のコミュニケーションツールとしても積極的に活用し、さらに充実した教育環境を整える。また、授業や面談、ポートフォリオの蓄積という学校内活動の充実を図ることも継続していく。2022年度からの全学年ひとりワンデバイス導入により、中学生が習熟度別学習や学力の定着度に合わせた個別の補完学習に取り組むことができるデジタルe-ラーニング教材の選定や活用方法等について検討を継続する。また、保護者への情報発信も積極的に行いスムーズな活用スタートになるようにしていく。光風館図書館にはメディアセンター機能構築が可能になり、蔵書配置の工夫やパソコン配置ブースの改善、学びのスペースをより充実した設置などにより図書館教育の充実並びに探究活動の教育拠点として活用し教育の充実をより一層図っていく。本年度からの全学年デバイス導入に伴い、セキュリティ対策等を充実させる。

(4) 経営・運営基盤の強化

① 志願者増・入学者確保につながる戦略的募集・広報活動

小中高入試広報部における中学校担当者が明確になり、担当教員との連携もスムーズになってきているので、継続して取り組んでいく。

光華として特色ある教育活動等を学内外で積極的に実施し、動画を積極的に活用してホームページも有効に使用しながら情報発信を行っていく。

募集広報活動にあたっては、教員一人ひとりが光華の一員としての自覚をもって広報活動に当たることは勿論、より効果的な組織体制の在り方については継続して検討を進め、募集効果を高める。学業奨学生や指定クラブ生徒奨学生の全生徒数に占める比率を2022年度入学生は前年度より抑えることができているが、今後も奨学生は抑えていく取組は継続していく。「ひかり入試」(特色推薦入試)、「ひかり成長型入試」をさらにアピールし、専願生徒の募集を継続して進める。より効果的な奨学費の活用となるように、奨学費の条件や維持の仕方についても継続して検討する。

光華の独自教育の一つである伝統文化教育の学びのアウトプット方法を工夫し、マスコミに対する情報提供やホームページにおいても情報発信を行い、光華ならではの教育魅力をアピールし入学者増に結びつける。

【墨づくり】

【京都アドベンチャー】(京都を知る)



4. 小学校

2022年4月「新生」京都光華中学校がスタート。

新たな教育(オリジナリティあふれる創造的な取り組みにチャレンジ)の試行、実践の年である。

(1) 光華一貫教育の創造

① 建学の精神に基づく宗教教育

2020年度から小学校で新学習指導要領の全面实施となっているが、特別な教科「道徳」に代わる「宗教」の時間において使用するための学校独自資料(教科書)の作成には至っていない。校訓「真実心」を具現化し、2022年度「新生光華」をスタートさせていくために、仏教教育を基盤に据え、伝統文化教育や礼儀マナー教育、異文化理解教育、言語教育を用いて、本校に入学したすべての生徒や児童が享受できる全人・教養教育として、「光華リベラルアーツ」策定し、「光華の心」=「こころの教育」の育成のより一層の深化を目指す。

教職員においては、共通認識・理解のもと一貫した指導ができるように、各種宗教行事の実施要項を整備する。また、宗教行事等についての共通理解を図ることにより、新たな指導内容や指導の視点についても検討し、小・中・高において共通実践ができるようにしていく。



地域とともにある学校、地域を支える学校として、小学校の児童会活動の在り方について検討しなおし、児童自身が主体的に積極的に地域貢献活動等に取り組めるようにする。また、日常的な活動においても、環境問題も含めて地域共生を意識した活動の推進を図る。学園内宗教教育（宗教行事や宗教講座等）や東本願寺における宗教行事への自主的かつ積極的参加を促し、仏教理解を深めていくようにする。また、宗教者等による研修を計画的に実施し、自己の心を見つめる機会の創設に努める。教職員についても学園内宗教教育（宗教行事や宗教講座等）や東本願寺における宗教行事への自主的かつ積極的参加を促し、仏教理解を深める。また、宗教者等による研修を計画的に実施し、自己の心を見つめる機会の創設に努める。

② 体験・探究学習×教科学習×EdTech

2021年度より幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学が一体となって「光華メソッド」の確立に向けた研究に取り組んでいる。本年度も研究を継続し、「光華メソッド」が誰にでも形として見えるようにしていく。

2022年4月から、中学1・2年生が新棟に入ることになる。新棟では、2教室に1か所、自由なスタイルでの学びを実現するためのコモンスペースが設けられている。教室の廊下側の壁は全面開くことも可能となっており、今までにない様々な体験や探究活動の展開が可能となっている。あわせて、2022年度から全学年でデバイスを持つこととなるため、デバイスの活用率等を上げ、講義型授業からさまざまな授業スタイルを導入し、論理的思考を促す活動を多く取り入れていく。新たに使用する授業支援アプリ等の検討や授業での活用方法の検討も継続して行っていく。

独自教科「京都アドベンチャー」における探求学習も進めながら系統的な宿泊研修や3年での探求旅行につないでいく。



本校の独自教育の一つでもある伝統文化教育については、伝統文化の時間だけの活動にとどまらず伝統文化の教育効果を教科横断的に捉えていくことができるようにカリキュラムの工夫改善を進める。これからの社会に求められる人間力を身に付けていくために各学年に応じた文理融合した教育テーマを設定し、論理的思考力を促しながら探究活動を推進する。個々の学力を保證するために個別学習をより一層推進し、デジタル教材の導入のための選別・検討を十分に行い、導入後の確実な基礎学力の向上を図る。

③ 言語活動と異文化理解教育

2020年度より進めてきているフィンランドのポルヴォー市の小学校とデバイスを通じた交流活動を継続して推進するとともに、新型コロナウイルス感染症の状況も見ながら可能な範囲で教員のフィンランド訪問も促し、世界的な教育大国といわれるフィンランド教育の良さを本校に取り入れる。

2022年度に小学校は新校舎内にメディアセンター機能を持つ図書館ができることを踏まえ、図書館の在り方について教員研修を実施し、図書館での教育活動の充実に向けた準備を行うとともに既存で可能なものについては図書館での新たな教育活動をスタートする。併設の大学とも連携し、小・中・高が一貫して光華論理（論理的思考力）の向上に取り組む。

フィンランドの国を知り日本の国を知ること！



(2) 教育研究体制・質の向上

① 教育体制・運営体制、研究体制のあり方

2022年4月からスタートする新教育において、小学校・中学校・高等学校が一貫した教育体制となるように、全教職員が参加・協力して教育内容、募集広報、人事・制度の抜本的見直しを図ってきた。光華の良さを残しつつこれからの時代に対応していくことのできる人材育成を行う新たな「光華」の姿づくりを進めるためのやるべき事項について確実な実践を図る。また、学期ごとに検証も行っていく。

さらに、「英語教育の光華」を実現していくために、短時間学習の充実も図っていく。

2022年5月に実施予定であった西日本私学小学校研究大会は残念ながら新型コロナウイルスの発生状況を踏まえ、中止となったが、2年間取り組んできた研究の成果を光華小学校単独での研究発表の形で実施したいと考えている。研究発表の機会をとりえ、光華小学校の新教育についても広く発信をしていきたい。

② 働き方改革に向けて

管理職を含めた組織体制の見直しを行った上で2022年度をスタートさせていく。組織のスリム化を図りながら風通しの良いコミュニケーションが取りやすくスピード感をもって校務が進めていくことができる体制づくりを進めていく。毎年実施している学校行事について見直しを行い、時代の変化とともに実施の必要性や内容の変更等も含めて継続して検討・修正していく。また、各種行事を実施する場合に実施までの流れなど必要に応じて改善を図る。2021年8月から教員の資質向上のための補助制度もスタートしたことから、長期学校休業期間中において、自己研鑽を働き掛けていく。

2019年度より導入された新たな管理職である「部長」制について、小学校では3部長であったものを組織のスリム化の視点から「小学校部長」のみとし、改めて業務内容を明確化するとともに、学級担任、各校務担当内容、日常業務内容等についてのチェックができるようにし、業務負担のバランスをとる。

2021年度から導入した週休2日制（隔週平日半日休暇）を確実に実施し、働き方改革を推進していく。また、教職協働を推進するために、「当たり前」を見直し、フラットな組織づくりや各担当間や部署ごとの意見交換がしやすい雰囲気づくりに努める。

(3) 教育環境の充実

① ハード面、ソフト面での環境整備

2022年4月から中学1・2年生が新棟に入って学び始める。新たな光華教育のスタートととらえ、2教室前のひとつあるコモンスペースに加えて廊下側の教室の壁が全開放するなど今までにない授業の展開が可能となる。「何のために何をどう使うのか？」教育環境が何のために変化しているのか見える授業づくりも必要と考えている。教育方法の変化に対応した研修も計画的に実施していく。



2022年度からひとりワンデバイスとなり、ロイロノートも積極的に活用していく。ホームページの活用により学校業務のICT化ならびにペーパーレス化を進めることにより教職員、生徒、保護者の事務負担軽減を図るとともに、学校と保護者間のコミュニケーションツールとしても積極的に活用し、さらに充実した教育環境を整える。また、授業や面談、ポートフォリオの蓄積という学校内活動の充実を図ることも継続していく。保護者への情報発信も積極的に行いスムーズな新教育のスタートになるようにしていく。新棟の図書館にはメディアセンター機能構築が可能になり、蔵書数も増えていく。学びのスペースをより充実した場所にしていくための図書館教育の充実並びに探究活動の教育拠点として活用し教育の充実をより一層図っていく。本年度からの全学年デバイス導入に伴い、セキュリティ対策等を充実させる。

(4) 経営・運営基盤の強化

① 志願者増・入学者確保につながる戦略的募集・広報活動

小中高入試広報部における小学校担当者が明確になり、担当教員との連携もスムーズになってきているので、継続して取り組んでいく。特に、本年度は新棟効果を最もアピールできる年でもあり、新棟を視覚的にとらえやすくする募集イベントの在り方をしっかりと考えていく。

光華として特色ある教育活動等を学内外で積極的に実施し、動画を積極的に活用してホームページも有効に使用しながら情報発信を行っていく。募集広報活動にあたっては、教員一人ひとりが光華の一員としての自覚をもって広報活動に当たることは勿論、より効果的な組織体制の在り方については継続して検討を進め、募集効果を高める。2021年度から実施した「ひかり成長入試」は、一定程度の募集に効果があったと思われる。さらにアピールし、専願児童の募集を増やしていきたいと考える。

光華の独自教育の一つである伝統文化教育の学びのアウトプット方法を工夫し、マスコミに対する情報提供やホームページにおいても情報発信を行い、光華ならではの教育魅力をアピールし入学者増に結びつける。

【新棟エントランス】



【新棟図書館(メディアセンター)】



5. 幼稚園

(1) 光華一貫教育の創造

① 建学の精神に基づく宗教教育

園児には、毎日のお参りを習慣付けるとともに、挨拶がしっかりと行えるようにする。

計画的に、年齢に応じた宗教教育を行ない、宗教行事を通して、仏教の教えに触れられるようにする。日々の保育の中で、思いやりのあるあたたかい心を育み、遊びを通して心身ともに調和のとれた子どもの育成に取り組む。

積極的に学外(仏教幼稚園協会・大谷保育協会)の研修会に参加をして学び、教員全員が、建学の精神に基づく宗教教育の理解ができるよう研修を実施し、保育実践をする。

学園の宗教行事や宗教教育の内容を保護者に発信し、保護者の理解・協力を得て、子どもの心を育む環境を備える。

② 英語教育の実践 (KOKA ENGLISH メソッド)

年少児から年長児まで英語教育の実施。満3歳児については、ネイティブ教員と触れ合いながら英語に親しめる環境を作る。園児が楽しく遊びの中で学べるカリキュラムを作成し、英語教育の中で思考し表現できる園児の育成をする。京都光華女子大学と連携し、教員自身も学べる体制作りをし、学んだことをネイティブ教員と共に保育の中で実施できるようにする。英語教育について、ブログや園だよりで定期的に配信し、参観日では、取り組みを保護者に伝え、本園独自の英語教育について可視化していく。

英語の絵本の読み語りを通して、「概念を捉えようとする力」「曖昧さに耐える力」「聞き続けようとする力」「英語を目にしたときに意味を知りたいという好奇心・探究心」を育む。また、英語絵本の環境も整える。

「KOKA ENGLISH CONTEST」に向けて、園内コンテストを実施する。

③ 効果的な教育手法の研究

子どもの「やりたい」という気持ちが引き出せるような興味・関心を広げる環境作りや教師の援助の在り方を考え、ヒト・モノ・コトの視点から保育実践をする。また、学年の枠を超え、異年齢での遊びなども通して、思考力・判断力・表現力が養う活動を取り入れる。

④ SDGsに対する取り組み

SDGsについて具体的に、絵本や紙芝居を通して伝え、自然環境や現代社会の問題についても考え、興味・関心をもてるようにする。ごみ分別や節水・無駄な電気を消すなどエネルギーを無駄にしないことを実施し、環境への興味や関心を深める中で、環境に対して感じる豊かな心を育てる。

また、身の回りの物（廃材）を生かした製作（KOKAエコアワード・作品展）などのエコ活動の実施。園内の畑で野菜を育てる体験などの食育を通し、食べ物の大切さや命をいただくことへの感謝の気持ちを持つことの大切さを教えていく。

（2） 教育研究体制・質の向上

① 魅力ある光華教育の構築

主体性と社会性の基礎を身につけ、学びにむかう意欲を備えた子どもを育成するために、子どもの「やりたい」気持ちを大切に、体験・探究型保育が充実できるようにする（主体性を育む保育）また、遊びの中でいろいろな表現活動（伝え合うこと）が楽しめるようにする。学年ごとのカリキュラムを再度見直し、子どもが遊び→遊び込める時間を保証し、【チーム】で保育を実施する。子どものやりたいという気持ちが何かを知る為には幼児理解が必要となる為、しっかりと計画し、記録をとることで、教員同士の保育の振り返り、実践を重ねていく。

年齢にあったその時期にふさわしい力が発揮できる（異年齢・チーム保育を考慮した）指導計画を立てる。また、教員間の協働性、保育力を再構築しながら保育実践をする。日々の保育活動はもとより、準備から当日までの取り組み経過を大事にする行事などを通してGRIT（粘り強さ、挑戦する気概）の育成をする。

子どもたちが遊びに没頭できるような環境作りを行い、活動の中で、気付く・できる・試す・工夫する・やりたいことに向けて頑張ることができる保育を実施。やりたいことを選んで遊ぶ選択制保育を取り入れる。【テーマ（異文化・運動・絵本・アート・音楽・自然・かがく）】チーム保育・異年齢保育の実施により、教員・子ども同士も交流しながら保育を進めていく。また、楽しい保育実践が行えるように、教材の在り方（ICT（タブレット））や、活用教材の捉え方を広げる。

教育活動を園だより・学年だより・クラスだより・ホームページ（ブログ）・インスタグラムなどで配信し、定期的に可視化することにより、教育内容や保育実践について保護者と園が共通理解できるようにする。また園児の成長の過程がわかるように個人カルテを作成し、保護者に伝えていく。

京都光華女子大学（こども教育学科）との定期的な園内研修を実施し、保育の質の向上を図る。また各校とは計画的・定期的な連携をし、園児・保護者・教員も学べる機会を広げる。

② 満3歳児保育の充実・拡大と将来構想

a. 満3歳児教育の必要性和アピール

発達に応じた保育カリキュラムの再構築し実践していく。非認知能力の育成に欠かせない満3歳児の幼稚園生活の基礎づくりと学びの芽を育む教育について、4年間を見据えた成長過程を可視化し、満3歳児保育の重要性を保護者に伝える。

b. アンケート結果による預かり保育内容の工夫と改善

就労者が増える中、預けやすい環境作りを実施する。また、満3歳児の子どもたちにとって無理がないような保育内容を検討し実施する。

③ 活気ある教職員体制づくり

a. 園務分掌組織の見直しと担当業務の明確化

運営組織の見直しと各運営部署の役割をわかりやく明確化し、教員自らが園運営に参加できる組織作りを実施する。その際、教務・学年主任を中核とし、マネジメントの視点を持って、若手教員に寄り添いモチベーションを高めながら育成していけるように力を注ぐ。週案会議においては「語り合う」ことを大切にし、園の同僚性を培っていく。コロナ禍、時代の変化に応じて、実施の必要性や内容変更なども含めて再検討し、決定できる機関を明確に、段階を追いながら検討し、教育体制を整えていく

b. 教務、学年主任を中核としたチーム保育・異年齢保育の実践

教務と学年主任が保育活動の中心となり、若手教員・中堅・ベテランの良さを生かしたチーム保育の実践。異年齢保育においては他学年の子どもを見守る中で、教員もより一層、連携・話し合いを大事にしながら保育にあたるようにする。

c. 得意を生かした協働カリキュラムづくり

教員の得意分野を生かし、テーマ別遊びの際に、子どもたちがより楽しんで遊べるカリキュラムを作成する。

d. 教育力向上を図るための自己目標やチーム目標の設定

自己目標・チーム目標を明確に設定し、実践する。教員の学びたい意欲を大切にし、自己啓発の推進を図るとともに、得意分野を生かした保育実践をすることで、保育の質の向上を図る。

また、教員同士が学び合う環境作りをする。子どもの姿や保育に対する自分の思いを語り合える園の風土が、保育者同士の良好な関係につながり、保育の質の向上、仕事の魅力の向上になることを踏まえ、自己PDCAサイクルを確立する。

e. コロナ禍のオンライン保育の工夫・習得・活用

教員がZOOM対応・動画配信などできるように、園内研修を実施。より良い保育活動が実施できるマネジメントの実施。

④ 働きやすい職場づくり(働き方改革に向けて)

a. 週休2日制実施による業務・行事の見直し

教員が意見を出し合い、週休2日制実施に伴う業務を見直し、検討、実施する。行事においては、当たり前を見直し、子ども中心に行事の在り方を検討していく。

b. 土日の有効活用

行事や子育て支援なども年間計画を立て、土日を有効活用しながら実施していく。

(3) 教育環境の充実

① ハード面、ソフト面での環境整備

a. 現園舎活用の工夫（絵本室・ホール・園庭・親子保育室など）

チーム保育・異年齢保育などの導入を含めて、保育室の有効活用を実施。

絵本室は、在園児の保護者はもちろん、未就園児の保護者の方にも絵本貸し出しが実施できるよう環境整備を整える。園庭遊びも更に充実できるように環境構成を検討し、親子保育室には未就園児に合った遊具や絵本を準備し、魅力的でかつ安心安全な保育室を設置する。

- b. 新型コロナウイルス感染症に伴う保育環境の整備（オンライン保育・動画配信・You Tube）
コロナ禍でも対応できる保育環境を整備し、子どもや保護者とつながりを持って保育が止まらないようにする。

（4） 経営・運営基盤の強化

① 志願者増・入園者確保につながる戦略的募集・広報活動

a. 全教職員による募集活動の実践

幼稚園事務室と連携をし、募集戦略の見直しを実施する。また、募集活動の年間計画を綿密に立て、教職員全員で募集活動に関われるようにする。外部へのアピールがしっかりと実施できるように、保護者が求めている幼稚園情報をよりわかりやすく掲示する。

入園説明会は、新型コロナウイルス感染予防を踏まえて、オンラインで実施し、両親や祖父母も来ていただけるように個別に対応できるようにする。保育見学会においても、オンライン見学会・個別対応を実施し、家庭ごとにじっくりと保育内容が見てもらえるようにする。

小規模保育園や児童館との連携を定期的に行い、幼稚園の内容について知ってもらう機会を作るとともに、幼稚園開放日など未就園児対象の取り組みの情報を発信していく。

コロナ禍において、地域開放「ワイワイキッズ」開催日の調整を行い、内容の充実を図る。定期的に幼稚園開放を実施し、来園しやすい雰囲気を作る。また、ミニ講演会やおしゃべり会等、未就園児の保護者支援の充実を図る。Webサイトを見て来園される保護者が多いことを踏まえ、幼稚園情報は素早く掲載する。

また、教育成果をわかりやすく可視化し、見せ方の工夫を行うと共に、ブログの発信回数、内容を検討し、Instagramによる発信も充実させる。

保護者のニーズに応え、課外教室を増加し、一流講師による指導を実施し、内容の充実を図る。

b. 収支黒字化に向けた幼稚園のあるべき姿の検討

教員体制を見直し、収支黒字化に向け、認定こども園の検討実施。

② 小学校への内部進学者増につなげる幼小連携の充実（内部進学率 目標25%）

全教職員が小中高一貫教育の内容を把握し、保護者に伝えられるようにする。教職員同士の連携を図り小学校と連携をもって、取り組みなどの情報を園内においても発信し、組織的に推進していく。また、園児と児童の連携を図り、交流学习の場を設定し、園児が喜んで参加できるようにする。その際、保護者や祖父母にも連携や取り組みの様子を可視化し、参観なども実施する。

入園時から子育て支援や教育と子どもの成長をテーマとした講座、小中高大と連携した講座などを実施し、時間をかけて少しずつ私学教育や光華小学校、光華一貫教育の良さを伝えていく。また、一貫教育の成果として、保護者に小学校の児童の姿や、中高生の姿を見もらう機会を増やす。その際、祖父母にも私学教育や光華小学校の良さを知ってもらう機会を設ける。小学校との連携（内部進学説明会や交流学习など）を見直し、アンケートやしあべり場を通し、保護者の進学に関するニーズを把握する。

6. 学園

（1） 中期計画「The Road to 2030 – ACT1」の事業計画実施と進捗管理（KPI管理）

2022年度は、「光華ビジョン2030」実現に向けた中期計画「The Road to 2030 -ACT1」の3年目にあたる。2022年度も引き続き新型コロナウイルス感染症拡大により、教育事業や募集活動、財務計画等への影響があることを想定し、中期計画の各事業については、優先度や重要性を検証、計画の見直しを行い推進する。各校園の主な取り組みとしては、大短の新学科設置の準備（作業療法専攻・歯科衛生学科、2024年度開設計画中）及び大学健康科学部二学部化の準備（2024年度開設計画中）、小中高新教育の開始・運営

(2022年度)、幼稚園教育改革と運営形態の見直し(2023年度予定)等が、財政健全化の取り組みとしては、学生等納付金収入・補助金収入の確保、人件費・奨学金・経費の適正化、支出超過部門の支出抑制策、各実施施策の効果検証と配分見直し等が挙げられる。なお中期計画の進捗は、KPI (Key Performance Indicator 重要業務評価指標)にて管理し、各事業の効果を定量的に管理する。

(2) 2022年度事業活動収支の改善

学校法人は、絶えず教育の質の向上に取り組んでいくため、財務体質の強化を図り、健全経営を実現し、施設設備への適切な投資とFD・SDの積極的な取り組みを進めなければならない。本学園はこれまで大学・短期大学の教育の質の向上を図るため、時代のニーズに合致した改組を展開してきた結果、2018年度および2019年度決算において、事業活動収支は黒字となった。しかしながら、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止に対する対策や学園独自の経済支援、2021年度は小学校・中学校新棟建設に伴う支出から、事業活動収支は赤字決算となった。2022年度は大学・短期大学部・大学院の事業活動収支は各学科別の具体的な目標収支を明示し、学生数に応じた支出抑制策を講じるなど、安定した事業活動収支黒字体制を構築する。幼稚園・小学校・中学校・高等学校においては、資金収支の黒字化を目指し、収入に見合った支出抑制策や奨学費制度の見直しを実施する。

(3) 補助金・助成金と寄付金、資産運用益の獲得

改革総合支援事業・採択型事業補助金等、補助金の採択に向けた調査・方策を機動的に発動し、申請することで大型の競争的補助金の獲得を図る。2021年度改革総合支援事業補助金は採択されず、残念な結果となってしまったことを踏まえ、より一層の研究と実践が必要である。また、経常費(運営費)補助金、特別補助金においても、各校園・部署間での連携を強化し、補助金情報を的確に把握することで確実な補助金の獲得に努める。

光華ビジョン2030の実現を目指し、施設整備事業やICT促進、DX推進、各種教育改革などを目的に、卒業生や保護者、関連企業等有縁者の方々や教職員に対し、「華の煌き募金」を継続的に募る。また、資産運用については、その目標額を0.8%とし、リスクを抑えた安定性の高い運用を実施する。投資リスク軽減のために運用資産ポートフォリオを策定したうえでの投資を基本とする。

(4) 事務局の組織再編と職員力の強化

事務局組織再編として、企画財務部の学園運営部への統合、学園施設部及び学園DX推進部の新設を行う。これにより、横断的業務対応による効率化、学園の企画業務(幼稚園改革、学園ブランド推進等)や重要業務(ガバナンス改革、寄付行為申請等)の遂行、学園キャンパス整備事業(新棟建設・改修工事、テニスコート移設・ロータリー設置、既存施設老朽化対応等)への専門的対応、業務のデジタル化(申請書の電子化・承認手続フローの簡素化等)と教育・研究DX化計画への対応等が可能となる。また職員力向上のため、業績評価制度(MBO)の見直しに着手し、チャレンジできる組織風土を構築する。研修については、管理職のコーチングスキル研修を行いつつ、その他の研修制度(全体・資格別・外部等)に精力的に取り組む。加えてPJ型業務への登用、免許・検定・資格取得等支援制度等により、職能基準に応じた資質・能力の向上を図る。2021年度より導入した完全週休2日制を適正に運用し、生産効率を高め、多様で持続可能な働き方ができる環境づくりに取り組む。

(5) 学園ガバナンス・コンプライアンスの強化

災害(地震・火災・水害・豪雨等)や感染症(新型コロナウイルス等)に迅速に対応できる組織・体制を強

化し、BCPやマニュアルの整備の定期的な見直しを行う。さらに、適正な備蓄品を確保、全学的な防災訓練の企画・実施など、危機管理体制のさらなる改善強化を図る。

また、改正私立学校法（役員の職務・責任の明確化、情報公開の拡充、中期計画の作成）及び大学版ガバナンスコードに基づき、各種ハラスメントの防止、個人情報の保護・管理等法令改正内容に即した各学園諸制度・諸規定の整備・改定を適切に行う。あわせて内部監査機能の充実を図る。

（６） NPO法人（京都光華アカデミック&スポーツクラブ）の事業展開

京都光華アカデミック&スポーツクラブは、「専門指導者の下、学術・芸術・文化・スポーツ活動並びに幼稚園・初等・中等・高等教育における課外活動の指導」を追加し、事業の拡大を図るため、2021年4月に名称を京都光華アカデミック&スポーツクラブと改称した。特にK+RunningClubの発展充実及び幼小中高大の放課後活動への指導者派遣を積極的に行い、地域住民も巻き込んだ活動を展開していく。今後は、幅広い分野での指導を視野にいれた活動を行い、経営基盤の強化を図り、地域のプラットフォーム校として貢献するための新たな事業会社または任意団体の設立を目指して取り組む。

（７） 各種団体との連携

永続的な光華ファンとして支援いただけるよう、有縁者である同窓生や旧教職員との連携強化を図るための組織体制（同窓会連携担当WG・旧教職員連携WG）を確立し、交流の機会を増やす。そのため、本学の取り組み（学園行事・公開講座・講演会等）を定期的にHPに掲載する。また、各校園の保護者会組織との連携強化も図る。

Ⅲ. 施設・設備等整備事業

1. 施設整備計画

北校地	大短将来計画に伴う新棟建築
	5号館 1 階歯科衛生学科（仮称）開設に伴う施設整備
	慈光館2・5階作業療法専攻（仮称）開設に伴う施設整備
	第一体育館バリアフリー化
南校地	旧小学校解体・跡地テニスコート設置
	中高本館～東館渡り廊下改修・バリアフリー化
	中高西館トイレ改修（3階）
	光風館地下南側トイレ改修

2. 設備整備計画

北校地	瑞風館食堂厨房機器更新
	3号館食堂厨房機器更新
	北校地空調機器老朽箇所更新
南校地	中高本館グラウンド出入口改修
	中高東館給排水配管更新
共通	建築設備定期点検指摘事項修理
	消防用設備修理
	災害時備蓄品定期購入
	光風館給水ポンプ更新

3. ICT教育環境の整備

ニューノーマルにおける学びの複線化・多様化・デジタル化に相応しい教育環境の提供を目指し、Wi-Fiは学内ほぼ全域で利用可能となった。2022年度は、更に整備が必要なエリアの調査、賢風館・間光館を中心としたネットワークスイッチの整備や、新棟建築に向けた調査などを開始する。

Web授業環境を維持し、別科開設や、通信教育課程、リカレント教育も視野に入れ、ストリーミングサーバ導入を検討、GAKUENやActive Directoryについては、2023年度中のバージョンアップに向け着手し、光華naviシステムの拡充を検討する。

必要に応じた端末のリプレースやDX推進の後方支援により、教育・研究や事務業務の効率を高める。また、補助金など、外部資金の獲得を図り、教育・研究環境の最適化を目指す。

セキュリティ対策として、安全にファイルを受け渡すための製品導入の検討と、体系立てた情報セキュリティ意識向上のための取り組みを実施し、インシデント発生の抑制を目指す。

IV. 2022年度予算

1. 中期計画「The Road to 2030 – ACT1」

The Road to 2030 ACT-1は、各校園が光華ビジョン2030の実現に向け2020年から2024年の5年間に取り組む課題および予算計画をまとめたもので、この計画に基づき学園は予算編成を行うとともに、各校園は、毎年、より具体的な実施計画を策定し、事業計画・事業報告としてホームページ等で公表することとしている。

経営
理念

光華教育に対する信頼性の堅持と社会への貢献

経営
目標

知性豊かで品位のある女性を育む教育と先進的な教育の融合が評価され、
ワクワク感が漲る地域のプラットフォーム校として認知される総合学園

人と人をつなぐ光華人材の育成

光華が核となる地域創生

経営
戦略

Society5.0時代を切り拓きSDGsの実現を担う光華教育

光華ビジョン2030	中期計画「The Road to 2030 – ACT1」(2020-2024)
<p>光華一貫教育の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 宗教教育で人間性・基本的価値観を醸成 ● 体験・探究学習(STEAMS)×教科学習+EdTech =「ワクワク・楽しい授業展開」 ● コミュニケーション力とグローバルマインドを醸成 	<p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 仏教科目の充実/こころの教育/宗教教育の指導法の確立 ● 探究学習/伝統文化/光華論理/グローバル教育 ● 光華論理プロジェクト(QFT・アクティブラーニング型授業)の実践
<p>教育/研究体制・質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 教育課程・手法の体系化・構造化と研究の推進 ● 学科、コース等の改革と学習・就職支援の充実 ● 個性的で活気ある教職員組織の構築 	<p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 基幹研究の推進(健康創造キャンパスの実現等)/教員の研究活動の奨励/ロイノート等の教育用アプリを導入した教育・指導法の確立 ● 大短の学部・学科等の改組/小中高のコース・プログラムの改革/満3歳児保育の拡充と4年保育の導入 ● 教職協働体制の推進
<p>教育環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 快適で学習効果を高める教育環境 ● 創立100周年につなげる校地・校舎の再整備 幼稚園園舎・小学校校舎の建替え、Society5.0時代に 相応しい学習環境、大短老朽施設の改修・建替え 	<p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 校園のICT教育環境の整備 ● 小中新校舎の建設/中高学習環境の整備/幼稚園新園舎の建設/ 大短キャンパスの整備
<p>経営・運営基盤の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学園規模の再設定(3,400~3,550名) ● 戦略的募集・広報活動を強化し志願者を増加 ● 中・長期計画の策定と着実な実施 ● 組織ガバナンスの強化と組織の活性化 	<p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学園創立80周年記念事業の推進/学園ブランディングの確立 ● 教職協働による募集活動/広報プロジェクトチームによる情報発信/ 地域・児童館との保育交流 ● 事業計画実施と進捗管理(KPI管理) ● ガバナンスコードの策定と運用/危機管理の強化とコンプライアンスの徹底/ 情報公開/働き方改革の推進

2. 2022年度事業活動収支予算

(単位:百万円)

科 目		2022年度 予算 (A)	2021年度 予算 (B)	差 (A)-(B)	
教育活動 収支	事業活動 収入	学生生徒等納付金	3,254	3,314	▲ 60
		手数料	37	39	▲ 2
		寄付金	24	50	▲ 26
		経常費等補助金	941	901	40
		付随事業収入	66	44	22
		雑収入	123	188	▲ 65
	教育活動収入計		4,445	4,536	▲ 91
	事業活動 支出	人件費	2,822	2,837	▲ 15
		教育研究経費	1,735	1,610	125
		管理経費	306	341	▲ 35
徴収不能額等		5	5	0	
教育活動支出計		4,868	4,793	75	
教育活動収支差額		▲ 423	▲ 257	▲ 166	
教育活動 外収支	事業活動 収入	受取利息・配当金	60	35	25
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	60	35	25
	事業活動 支出	借入金等利息	7	6	1
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	7	6	1
教育活動外収支差額		53	29	24	
経常収支差額		▲ 370	▲ 228	▲ 142	
特別 収支	事業活動 収入	資産売却差額	1	1	0
		その他の特別収入	15	34	▲ 19
		特別収入計	16	35	▲ 19
	事業活動 支出	資産処分差額	84	1	83
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	84	1	83
特別収支差額		▲ 68	34	▲ 102	
予備費		30	30	0	
基本金組入前当年度収支差額		▲ 468	▲ 224	▲ 244	
基本金組入額		238	▲ 273	511	
当年度収支差額		▲ 230	▲ 497	267	
事業活動収入		4,521	4,606	▲ 85	
事業活動支出		4,989	4,830	159	
事業活動収支差額比率		-10.4%	-4.9%	-5.5%	
人件費比率		62.6%	62.1%	0.5%	